

Together

2014 Winter | <http://www.shukutoku.ac.jp>



Cover Person
高橋 大和さん
人間環境学科3年

長谷川匡俊前学長記念講演

「仏教、歴史から学ぶ社会福祉実践のあり方」

学長メッセージ

自分の問いと向き合う読書を

クラブプレス

淑徳調査団

福島県いわき市復興支援

淑徳人

千葉県柏市立柏第三小学校 校長 長谷部徹弥さん

NEWS CLIP

知識モリモリ×栄養モリモリ「じょうずに食べて元気にはつらつと！」

プレ200号！特別企画

淑徳大学広報が 伝えてきた 20年

～広報誌100号から振り返る本学の歴史、次の100号へとつなげる広報誌の展開～

199
2014.1.1



一季一言

自分の問いと向き合う読書を

学長 足立 勲

あけましておめでとうございます。気持ちを新たに、新年を迎えられたことと思います。

平成26年4月には、東京キャンパスに新しく人文学部／歴史学科と表現学科が誕生します。本学が目指すところは、人や社会とともに学び、社会につながる学びです。学問分野を拡大しつつ、教育の充実を一層努めてまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

年頭にあたり、皆さんはどのような思いを抱いているでしょうか。近年、社会の変化は目まぐるしいものがありますが、いかに生きるかの若者の悩みや、不安の本質は、時代が変わろうとも同じでありましょう。

私自身を振り返れば、学生時代には国内外の文学作品をジャンルを問わず読み漁り、生きるとはどういうことか、いわば自分探しのような日々を過ごしていました。

そこで糧となり、人生の財産となったものが書物でした。現代のインターネットやそこから素早く情報が得られることの利点を否定するものではありませんが、ともすると正解や結果に至る解決法を早急に求めることに、若干の懸念を感じています。探求のプロセスを軽視しがちな現代の社会環境が若者の思考する機会を奪っている可能性もあるのではないか、とも思います。

このような時代だからこそ、私はあえて書物に親しんでほしいと言いたいです。

読書の本来の意味は、自分と対話することである、と私は思っています。主人公の悩みや葛藤に自身を投影し、生きるとは？自分とは？といった漠然とした問いと向き合い、その問いの意味を明確にしていく。他者の痛みや喜び、あるいは取り巻く社会に対する感性を磨いていく。その過程はエネルギーを要するものですが、必ずや世界を広げ、自己を活かす道を教えてくれるはずですよ。

先ず身近な一冊を手にとってみましょう。読書の豊かさを実感してください。新たな年が、皆さんにとって実りあるものとなりますよう祈念いたします。

SAITAMA Campus

芋掘り体験！ in三芳町

掘おれ、掘れ、掘れ、い～も～！
～歌って、作って、いも掘って、地域の方々と親睦を深めよう～

平成25年10月6日(日)、三芳町三富新田の風土・歴史に触れつつ、さつまいも掘りを体験する「世界一のいも掘りまつり」に参加しました。当初予定の5日(土)が雨天順延となり実施当日は参加が半減してしまいましたが、教育学部1年生41名と教職員9名の計50名が、本邦初公開のオリジナルイメージソング「よしヨシMIYOSHI！カーニバル—SUN富(とめ)SAMBA—」演奏からスタートし、スタンプラリーでのムギ迷路、いも掘り、雑木林散策、上富小学校敷地内特設テントにおける「いも版づくりコーナー」での制作指導等、一般参加の方々と親睦を深めながら楽しい一時を過ごしました。



看護栄養学部で「ボランティア講座」開講

高齢化が進む松ヶ丘地区へのボランティア活動

看護栄養学部の学生はボランティア活動に対する意識がとても高いのですが、カリキュラムの制約からその時間が取れず、活動したくてもできない学生が多いという現状があります。一方、キャンパスが位置する松ヶ丘地区は高齢化が顕著な地域であり、若い世代との交流が期待されています。このような経緯から、「ボランティア講座」を開講しました。講義を初め、施設の見学、演習など、計10回の講座が実施されました。



学生たちは、これまでも松ヶ丘地区・千葉市社会福祉協議会等と連携し、松ヶ丘ふるさと祭り、

Topics

がんばっている学生、グループ、注目のイベントなどをご紹介します。

CHIBA Campus

「なでしこリーグ2013」新人賞を受賞

総合福祉学部教育福祉学科1年 上野紗稀さんが、「なでしこリーグ2013」の新人賞を受賞しました。



上野さんは、千葉キャンパス最寄りの蘇我駅にある、フクダ電子アリーナを本拠地とするジェフユナイテッド千葉レディースに所属していますが、以前からなでしこジャパンU-19の選手として米国遠征、中国でのW杯アジア予選に参加していました。9月に行われたナイジェリア代表との国際親善試合でも先発メンバーとして出場、体格でまさるナイジェリア選手を相手に、終盤まで粘り強いプレーを見せてくれました。ちなみに最優秀選手はなでしこジャパンFWの川澄奈穂美選手で、同じ表彰式での受賞でした。上野さんのこれからの活躍、心から応援しています！

◀受賞式の上野さん



CHIBA Campus

アジアユースパラ競技大会 2種目で優勝

総合福祉学部社会福祉学科1年 松本春菜さんが、「全国障害スポーツ大会」陸上競技も2種目優勝しました!!

社会福祉学科1年生の松本春菜さんは、マレーシアで開催されましたアジアユースパラ競技大会に日本代表として出場し、100メートル走と走り幅跳びで「金メダル」という輝かしい成績を残しました。

また、10月12日から14日の3日間で開催された、スポーツ祭東京2013 第13回全国障害スポーツ大会に出場し、陸上競技2種目(100メートル走と走り幅跳び)で優勝しました。おめでとうございます。



CHIBA 2nd Campus

Cover Person

たかはし やまと
高橋 大和 さん

国際コミュニケーション学部
人間環境学科3年



アドミッションスタッフTシャツ ▲

1年生からアドミッションスタッフとして活躍し、今年度は統括リーダーとしてオープンキャンパスを支えました。千葉キャンパスのアドミッションスタッフやサークル連絡会など他団体と連携を取り、「つながり」をメインテーマとしたオープンキャンパスを企画。

特に、保護者の方々とのお話から、立場・年齢の異なる人々のコミュニケーションの難しさと共に、「学校選び」の大切さや進学への思いを感じ、子どもを思う親の気持ちを学びました。この経験を活かし、将来の夢である「人を輝かせる小学校教諭」への道を一步一步前進しています。



老人ホームへの慰問、育児サークル、千葉東病院の夏祭りなど様々な場面でボランティア活動を行ってきました。今後は、講座の修了生らによるボランティアサークルとして活動が発展していくことが期待されます。



【182号】●千葉市連携協定締結
熊谷俊人千葉市長を本学に招き調印式を実施。特別講義も行っていただいた。これまでも千葉市との連携によりさまざまな活動を行ってきたが、この協定によりバックアップ体制がさらに充実。



【181号】●15号館完成
千葉キャンパスに10階建の新しいシンボルが誕生。学生サービス、教育・研究の拠点となった。



【159号】●商学連携1号店が開店
白旗商店会と大学の連携による空き店舗活用事業として実現した試み。白旗商店街のと連携に弾みがつき、その後のさまざまな活動につながっていく。



【156号】●ブックセンター・カフェテリアオープン
三省堂書店、銀座スエヒロが運営するレストラン(11号館)、10号館のカフェテリアペーカリーがオープン。



【156号】●新潟・中越地震 復興プロジェクト
2004年10月23日に発生した新潟・中越地震の復興支援のために、12月末に学生25名、運営スタッフ10名の総勢35名が現地に入り、支援物資の配布、雪かき、清掃などを行った。



【149号】●4号館「グッドデザイン賞」受賞(埼玉)
機能性に優れた斬新なデザインの埼玉キャンパス4号館。日本産業デザイン振興会主催の2003年度グッドデザイン賞を受賞。同年は丸の内ビルディングや六本木ヒルズも受賞。

2013～	2012	2011	2010	2009	2008	2007	2006	2005	2004																																
● 198号 ● 198号 ● 198号 ● 197号	● 193号 ● 193号 ● 192号 ● 192号 ● 191号	● 188号 ● 187号 ● 186号 ● 184号 ● 184号 ● 183号 ● 182号 ● 182号 ● 181号	● 179号 ● 179号 ● 177号 ● 177号 ● 177号 ● 174号 ● 174号	● 173号 ● 172号 ● 169号	● 166号 ● 166号	● 162号 ● 159号 ● 159号	● 156号 ● 156号 ● 154号	● 152号 ● 149号	● 149号																																
人文学部「表現学科」「歴史学科」がスタート(東京)	社会学部「表現学科」がスタート(東京)	教育学部の展開	50周年記念事業に向けて	東日本大震災ボランティア学生座談会	体験、ふれあいを通して得た宝物	長谷川良信記念 車椅子バスケットボール全国選抜大会	まちをひとを笑顔にする(経営学部、栄養学科)	こどもにいちばん近い教員が目標(OB教員コメント)	東日本大震災ボランティア学生座談会	心のパトンをつなぐ	森田健作千葉県知事・学長対談	利他社会へ踏み出そう	東日本大震災 いまできることをここから	東日本大震災ボランティア報告	ゆめ半島千葉大会報告	龍澤祭 乙武洋匡氏講演	岩崎夏海氏学長対談「マネジメントとは幸せを追求すること」	千葉市連携協定締結	学祖の夏休み	15号館完成(千葉)	ホームカミングデーにて第1回長谷川良信賞表彰	ブラジル派遣研修に参加して	宮城内陸地震ボランティア	淑徳大学スペシャルナイター	コミュニティ政策学部始動	看護川柳大賞スタート	シンポジウム 野田秀樹氏ほか参加(埼玉)	看護学部開学1周年記念講演	日野原重明先生(千葉第2)	中沢さえさん(女子柔道 北京オリンピック出場)	孤独死を考える (松戸市常盤平自治会長中沢実氏・学長対談)	新生淑徳スタート(看護学部誕生)	淑徳大学広報愛称決定「Together」	新たな一歩(看護、教育、こども等の今日の構想が示される)	商学連携1号店が開店	淑徳大学40周年記念行事	ブックセンター、カフェテリアオープン(千葉)	新潟・中越地震 復興プロジェクト	善財童子 除幕式・開眼法要(千葉・埼玉)	新入生歓迎スポーツ大会始まる(千葉)	4号館「グッドデザイン賞」受賞(埼玉)

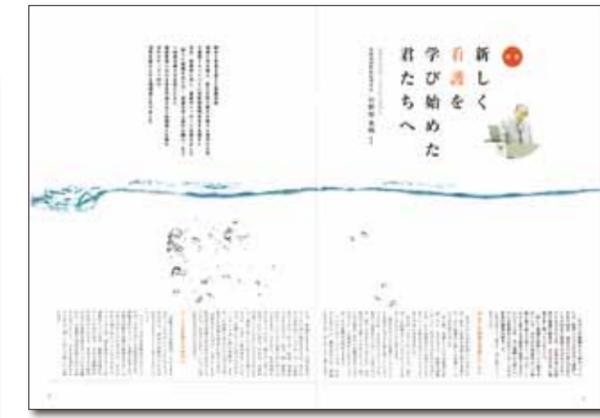
(名称は掲載当時の表記をそのまま使用しています)



【192号】●まちを、ひとを笑顔にする経営学部、栄養学科
震災以降、サービスラーニングやボランティア活動についての記事が多くなる。新学部、学科もこうした時代の要請に応じて生まれた。実学とは何か、どう実践するかは、広報誌の大きなテーマの一つ。



【187号】●東日本大震災～いまできることをここから
震災発生直後から募金活動等行い、5～6月にかけては現地支援活動を実施。現在も継続されている。広報誌でも以降ほぼ毎号において現地の状況や支援活動について伝えた。



【173号】●看護学部開学1周年記念 日野原重明先生講演
日野原重明先生をお招きし、講演会を実施。学生、教職員へ向け「新しい看護のあり方」「看護を学ぶ者の心構え」について激励のメッセージを伝えた。



【166号】●淑徳大学広報愛称決定「Together」
総数224にのぼる応募の中から決定。163号から誌面をリニューアルイメージを一新。



【162号】●新たな一歩(足立学長特別補佐=当時)コメント
看護学部(現・看護栄養学部)やこども教育、淑徳共生苑など、現在に続く新しい構想が述べられている。宗教・教育・福祉の三位一体の大学運営を推進していくことをあらためて確認。



VOL.118 (1997年10月) パネルシアターサークルでんでん虫、手話サークルたんぼのそれぞれの代表がボランティア活動について語っている。95年の阪神淡路大震災を契機に、全国的にボランティア活動が活発になった。



VOL.120 (1998年3月) 長谷川学長(当時)が、長野オリンピックに伴い開催されたパリンピックに在学14名がボランティアとして参加した背景を語りながら、巣立つ卒業生へはなむけの言葉を述べている。



VOL.129 (2000年1月) 福祉分野以外での環境ボランティアや地域再生にも触れられながら、坂巻照教授、守永英輔教授が建学の精神とボランティア活動について語る。



池袋サテライトキャンパスで行なわれる編集会議

毎回白熱、編集会議

Togetherの発行は年5回(4月、7月、10月、1月、3月≡卒業生号)。各号について、企画会議と校正会議の2回ミーティングが開かれます。企画会議では、各キャンパスの広報委員が情報やトピックスの企画案を持ち寄り、どのような扱いで掲載するか、どれぐらいのスペースが必要か、などを話し合います。どうしても譲れないニュースを巡り、ときにはキャンパス間で白熱したバトルが繰り広げられることも。あつという間に2〜3時間が過ぎていきます。

掲載ラインナップが決定すると、取材や原稿依頼が始まります。先生方がカメラマンになることも。皆さんのイキイキとした活動振り、笑顔がTogetherの命です。

そして、印刷直前に行われるのが校正会議。記事やデザインを全員でチェックします。締切間際には連絡メールが飛び交い、ようやく校了(チェック終了)。出来上がりが楽しみです。企画から発刊まで約2ヶ月。Togetherはみなさんの協力と広報委員の汗と涙(汗)で制作されています。ぜひ読んでください。

Togetherはこうして作られる! 編集の舞台裏を初公開

広がるボランティア活動。重みを増すその意味。

先輩達のバトンを受け継ぐ

阪神淡路大震災が発生した1995年は、「ボランティア元年」であったと言われています。それまでもさまざまな社会活動が行われていましたが、この震災を契機に社会的認知が高まったということでしょう。淑徳大学広報でも本学のボランティア活動を継続的に取り上げてきました。特に100号以降は、地域や対象が一層広がりを見せています。

118号「1997年」では、「パネルシアターでんでん虫」「手話サークル・たんぼ」などに所属する学生が座談会形式でボランティアの経験や思いを述べています。現在も活動を続ける伝統サークルであり、先輩達の活動の蓄積を感じることができます。120号「1998年」では、長野パリンピックに派遣されるボランティア14名の結団式のニュースが掲載されました。この活動は同窓会長野支部の協力で実現したこと。同窓会との連携、スポーツという新しい分野への取り組みと、その後の本学のボランティア活動の展開を予感させる話題です。128号「1999年」〜129号「2000年」では、本学のボランティア活動の現状や展望について巻頭特集が2回連続で組まれました。NPO法の施行が1998年。市民活動の重要性と、本学がまさに「ボランティアの権林(学問所)」として担う役割の重さが、この特集で再確認されました。

価値ある活動と学びを追求していく

学内では地域支援ボランティアセンターが設置され、活動がますます拡大していきます。大きな契機は、2010年に開催された「ゆめ半島千葉大会」におけるボランティア活動です。当初350名の動員依頼のところ、最終的に541名が参加しました。学生の意識の高まり、絆の深まりを実感することができた活動でした。そして、2011年3月、東日本大震災発生。卒業生である岩佐勝氏(宮城県石巻市大須中学校校長)より情報もたらされ、現地支援を開始。現在まで延べ1000名を超える学生が参加しています。このほか、「白旗商店街七夕まつり」や「ドリームナイト・アット・ザ・ズー」など、千葉県・市内の行政や団体と連携した取り組みもすつかり定着しました。

言うまでもなく、ボランティアは本学の学びの重要な柱です。単に支援やお手伝いといった作業ではなく、人との関係性の中で自分を活かし高めていくことで価値ある学びとなります。それこそ、今の大学に求められている教育であり、社会貢献です。学祖は半世紀前から実学の理念を掲げてきたわけですが、「後に続く者を育てたい」という開学の情熱を受け継ぎ、これからも活動の機会を広げていきます。多くの学生の参加を期待します。

広報委員がオススメする見どころ



108号「淑徳調査団のページ」

より多くの学生に登場してもらい、頑張っている姿を伝えたい。それが、Togetherのコンセプトです。そのため、今年度から表紙も一新しました。雑誌のようだと呼びます。表紙は学生の写真を掲載していますが、登場する条件はただ一つ。どんなことでもいいので、日頃の学生生活を頑張っている学生です。特別な実績や経験は必要ありません。自薦・他薦を問わず、ぜひ多くの学生にエントリーしてほしいと思います。

そして、今年度から始まった新企画が「淑徳調査団」。学生に自由なテーマでリサーチしてもらい、それを紙面で発表する記事です。これまで、ゼミや団体に協力してもらい「ボランティア」「夏休みの過ごし方」「料理」などのテーマを取り上げてきました。淑大生の意外な興味・志向も明らかになりました(旅行先人気No.1は千葉県・九十九里浜、人気料理No.1は日本料理、など)。このコーナーは、広報誌とみなさんを、みなさんとみなさんをつなぐコミュニケーションの場としていきたいと考えています。ゼミやサークルなどに限らず、友達同士での参加もOK。こんなことが知りたい、調べてみたい、あるいはTogether制作に携わってみたいという人はぜひスタッフまで申し出てください。Togetherにはみなさんの協力が不可欠。学生が紙面の主役です。これからもよろしくお願ひします。

1999年の編集を終えて

今回の特集記事を編集するため、広報誌100〜1998号を読み返しました。そこで発見したトピックスをご紹介します。

今も健在! 伝統のサークル

広報誌ではほぼ毎年、学生団体一覧が掲載されています。102号「1993年」に掲載されているのは56団体。現在の約3分の2です。体育系クラブのほか「放送制作研究会」「うるし柿音楽事務所」「お達者クラブギター」「F&Jカンパニー」「レクカンパニー」「うたう会はぐるま」「ごぶしセツルメント」「老人ボランティアアサークルポケット」「BBS」「手話サークルたんぼ」「パネルシアターサークルでんでん虫」「点字探偵団」「うたう会はぐるま」などが名前が見られます。



学園祭テーマ集勝手にベスト3

スマイル、愛、優しさなど、本学らしいテーマが多く見られましたが、ここではちょっと独創的なものを選んでみました。学生の意気込み、カラーがわかりますね。



今年度大学広報編集委員会

- 1位 第11回淑徳祭 「一祭学祭」
 - 2位 第41回龍澤祭 「笑」〜Youも笑っちゃいなよ〜
 - 3位 第3回淑徳祭 「ETERNAL DREAM」
- △今年度大学広報編集委員会
- 相澤 修一郎 (埼玉キャンパス図書館事務室長)
 - 朝倉 はるみ (観光経営学科准教授)
 - 岩村 沢也 (観光経営学科教授)
 - 大野 美千代 (看護学科助教)
 - 鏡 諭 (コミュニケーション政策学科教授)
 - 河津 英彦 (こども教育学科教授)
 - 今野 智子 (広報・地域支援室)
 - 長谷川 俊哉 (千葉事務部長)
 - ト 雁 (社会福祉学科准教授)
- (五十音順)



VOL.193 (2012年10月) 東日本大震災での被災地支援を行った学生が座談会を行い、現地での体験やこれからの支援活動について語り合った。



VOL.184 (2011年1月) 2010年10月に開催された「ゆめ半島千葉大会」のボランティア学生の活動を報告している。ボランティアの参加学生は541名にものぼった。



VOL.128 (1999年10月) 高校生向けに開催する公開講座「ボランティアを知ろう」や、「環境ボランティアサークル」の研修宿泊や個々の活動が報告されている。

今回のテーマは **福島県いわき市復興支援** で徹底リサーチ!



復興の象徴 “スパリゾートハワイアンズ”

常磐炭鉱閉山後、従業員の雇用確保・収入源確保のための新規事業として、開園した「常磐ハワイアンセンター」。炭鉱では役に立たなかった地下から湧き出る温泉水を利用した温泉施設です。目玉である「フラダンスショー」は、常磐音楽舞踊学院の学生・卒業生を中心に行われ、地域活性の象徴となりました。その後名称は「スパリゾートハワイアンズ」に変更され映画「フラガール」で取り上げられました。公開後は過去最高の161万1000人の入場者を記録しました。

しかし、東日本大震災の影響を受け休館となりました。復興のため、フラガール達が立ち上がり、国内各地や韓国など125か所で公演を行い、復興支援をアピール。2012年8月より全館営業を再開し、2013年8月には累計入場者数6000万人を達成。震災復興支援の象徴となりました。

事前調査を終え、スパリゾートハワイアンズに行きました。 —新度悠裕さん、湯浅大基さん

事前調査

「淑徳調査団」は、淑徳大学にまつわるギモンや面白そうなことを毎回メンバーがリサーチしていく企画です。新年特別号である今回のテーマは、「福島県いわき市復興支援」。 私たち「コミュニティ政策学部」は、事前調査を終え、いわき市を現地調査。現状、そして復興支援、未来へと進む「福島県いわき市」を徹底リサーチ!!

新しい未来をつくる、未来へつなげる復興支援

現地視察・調査を終え、今いわき市はどんな取り組みをしているのか。NPOいわき市サポートネットの方々について教えていただきました。



説明会の後、開かれた懇親会では、現地の方々との復興に対する本音や思いを語り合いました。

復興公園建設企画

「メモリアル公園」を建設予定。海沿いに木を植えることで、津波の被害を軽減するだけでなく、物が海へ流れ出るのをせき止めます。安心して暮らせる地域づくり、平和への思いが込められた計画です。

平和について改めて考えさせられるスポットとなるはず。是非行ってみたいです。 防波堤を設計した安全な地域づくりは今後の地域活性化へつながるはず。

タイムカプセル事業

津波を経験した人たちの証言収集をし、カプセルにつめます。何十年後の子供達に、被災の様子を伝え、実体験を残すことで、防災意識を高めてほしいという思いが込められた計画です。

時とともに、少しずつ記憶が薄れていってはいけません。後世に伝えることは大切だと思います。また、復興に向けて様々なイベントを企画し、行動している方々をサポートネットの方々の真摯な姿勢に胸を打たれました。

Data 2

福島県いわき市現地調査 —いわき市の現状を徹底リサーチ!

ハワイアンセンターのように、いわき市は再開がすすんでいるのだろうか。

NPOいわき市サポートネットの方々とお話しを伺った

津波や震災の被害について説明を受け、その後各自、震災や復興支援について質疑応答を行いました。

津波の映像は、人の声が聞こえ、車のクラクションが鳴り響き、本当に恐ろしかったです。 質疑応答の時間に中小企業への保証について質問をしました。直接援助金を渡すのではなく、融資による公的支援だと知りました。

いわき市勿来地区を視察

がれきの山、崩壊したままの住宅などがそのままの状態が残っていました。 跡形もなくなった住宅から津波の破壊力を感じました。

残っている家は、人が住める状態ではありませんでした。当時どれだけ大変だったのか目の当りにしました。 がれきの山や1階の柱だけで建っている家もありました。津波の脅威を体感し、震災があったことを絶対に忘れてはいけないと感じました。

Data 1

仏教、歴史から学ぶ社会福祉実践のあり方

日本の福祉実践史における仏教の役割 ~前近代における実践(者)の系譜~

長谷川匡俊先生(大乘淑徳学園理事長)は、2013年3月末で淑徳大学学長を退任されました。48年にも及ぶ長い教員生活の区切りとして、第23回淑徳大学社会福祉学会において、退任記念講演が行われました。学長在職中、「宗教・社会福祉・教育の三位一体による人間開発・社会開発」という学祖が掲げた理念の推進に尽力されてきたのは周知の通りです。現在も、淑徳大学アーカイブズ所長、長谷川仏教文化研究所所長等の立場で、校是・仏教精神の啓発に努められています。

今回の講演では、仏教史・歴史学・社会福祉研究の長年の蓄積に基づき、社会福祉実践者の心のあり方、行いのよりどころをも考えさせる示唆に富んだお話をいただきました。



社会福祉実践者として、あるいは社会福祉を志す者として、現場や実習先で悩み・不安に駆られることがあるのではないのでしょうか。援助を求めるとどう向き合えばいいか。なにをすればいいのか。特に現場では複雑な仕組みや制度が対応を難しくしています。 そんなとき、原宿を思い出してみよう。本学の「共生」「with him」の精神は大乗仏教をよりどころとしています。大乗とは大きな乗り物の意味であり、すべての人が平等に救済されると説いています。 この大乗仏教の精神を前面に掲げ、社会事業を展開したのが学祖・長谷川良信先生であり、その師の渡辺海先生です。 浄土宗僧侶である良信先生、海旭先生の実践はさらに深い宗教的基盤に基づいています。この源流を辿る試みが、今回の講演のテーマとなった長谷川匡俊先生の研究です。

先生のライフワークの一つに「無能上人(1683~1719年)」研究があります。民間仏教者の一人であり、不特定多数の民衆生活のただ中に入り込み、自らの修行とともに信仰の扶植に努めました。また、布教・教化活動とともに福祉実践に大きな足跡を残しました。自分を問わず社会的救済に尽力し、自らにはまさに清貧と言わなければならない戒めを課したと言います。 実践者には自利利他の行いが求められます。そして、大衆には念仏を唱えることによって救済されると説く。教化と福祉、この長い歴史の継承として、良信先生や海旭先生の実践があるわけです。無能上人をはじめとする民間仏教者の系譜もさらに歴史を遡ることが出来ます。 匡俊先生は、日本の社会福祉の歴史を、とりわけ実践史の視点に焦点を当てようとする場合、近代以前を抜きにしては、日本の福祉実践史にみられる豊かな実りやその特質を明らかにすることはできないと述べています。 同様に、仏教が担った多様な役割にも目を向けるべきで、その際に、近代とそれ以前との関係について、連続性ないし継承性の側面に着眼しようとするのが自分の立場であると言います。 忙しい校務の傍らで、無能上人の足跡を求めて東北各地をフィールドワークするなど、地道な研究を続けてこられました。



義が確立され、制度化が進むなかでの福祉実践とは一線を画するものですが、福祉の源流から現在の福祉実践に一石を投ずるものです。もちろん、現在社会の仕組みやそこで求められる技能を学習することは必要なことです。 しかし、基盤である宗教やその歴史を学ぶことで、現在の、あるいはこれから就こうとしている福祉の仕事に自分なりの意味づけが得られるのではないのでしょうか。こうした学びが、ともするとないがしろにされていることは残念です。専門的な理論と実用の技能と、それを支える哲学(あるいは宗教)が一体となって、はじめて実践者にふさわしいと考えます。 学びを深める契機となる貴重な講演でした。匡俊先生、ありがとうございました。

講演後、第1期卒業生である総合福祉学部 川真田先生が代表して花束を贈呈しました。

第23回 淑徳大学社会福祉学会

当日は、長谷川匡俊先生のほか、先生が30年来の学問の友であり最も良き理解者であるとおっしゃる皇學館大学名誉教授・宮城洋一郎先生が「日本社会福祉史における前近代と近代をめぐる課題~長谷川匡俊先生の研究に学ぶ~」と題して講演されました。会場には、教職員に加え匡俊先生を慕う卒業生の姿も見られ、終了後の懇親会では懐かしい思い出話に花が咲きました。

皇學館大学 宮城洋一郎先生と(右側)



Thank you!!

協力:コミュニティ政策学部 鏡ゼミケーススタディの皆さん



淑徳調査団 募集!

reply@soc.shukutoku.ac.jp

ご応募お待ちしております



Kendo

剣道部 CHIBA Campus

- 代表者：眞野 永梨 (教育福祉学科3年)
- 創部：1965年
- 部員数：15名(男子9名 女子6名)
- 活動日：月・火・水・金曜日(週4回)
- 部室：4号館11



剣道部は現在15名で2段から3段の有段者からなる団体です。ほとんどの部員は幼少期から剣道を始めており、剣道を10年以上続けているものも少なくありません。初心者で入部も勿論あり竹刀を握ったことがなくて入部して卒業した先輩もいました。

学外の3つの団体に加盟(関東学生剣道連盟、千葉県学生剣道連盟、全日本仏教系大学剣道連盟)、年6回ある大会に出場しています。練習は道場

で通常週4回、また年に4回1週間の合宿をキャンパスで行なっています。部活に強制することもなく自由に参加し、部員同士は仲がよく、部室に集まれば笑顔の絶えない仲間たちです。

昔剣道をやっていた、初めて竹刀を握ってみたい、そういうメンバーも歓迎です。「生涯剣道」という言葉が存在するほど、剣道は世代の幅広い世界です。ぜひ剣の道の第一歩として我々淑徳大剣道部の仲間になってみませんか?見学お待ちしております。



Volunteer

総合ボランティアサークル・Positive

SAITAMA Campus

- 代表者：中村 謙児(人間環境学科3年)
- 創部：2006年
- 部員数：23名(男子9名 女子14名)
- 活動日：主に土・日曜日・祝日・長期休み
- 部室：313



私たちポジティブは、三芳町にある児童館や福祉施設で子どもたちを中心に高齢者や障がい者へのボランティア活動や献血活動のお手伝いを行っています。

お手伝いの内容は、毎月のようにある季節ごとの児童館でのイベント(お化け屋敷の企画、カレーやうどん作り、納涼祭など)や障がいを持った子どもとのふれあい(子どもとペアになって遠足に行くなど)、献血時の呼び込みなどです。様々な手伝いを通じて、多くの方々と触れ合いや関わりを持つことで、ボランティアを行うことの大切さや楽しさを日々感じています。また、現在取り組んで

いる活動以外にも、今後様々な活動に関わり経験を積みしたいと思います。

私たちのサークルはとても雰囲気良く、部員同士の絆が深いサークルです。子どもが好きで子どもたちと遊びたいけれど機会がない。ボランティアに興味はあるけれど、どうすればボランティアをできるのか分からない。そんな時は是非、ポジティブの部室に足を運んでみてください! 素敵な出会いが待っています。ボランティアに積極的に参加すると、いろいろな人と顔と名前を覚えてもらえますよ! 私たちと一緒に子どもたちやおじいちゃん、おばあちゃん、障がいを持った方たちに笑顔を届けてみませんか?

● 部活・サークル記録ファイル

2013.9 ~ 12

部活・サークル	記録
硬式野球部	9月7日、10月20日 平成25年度千葉県大学野球秋季リーグ戦 2部4位 11月2日 平成25年度千葉県大学野球秋季リーグ戦 出場 11月24日 第60回千葉県秋季学生剣道大会 出場 11月24日 第59回関東学生剣道新人戦大会 出場 11月24日 第14回関東女子学生剣道新人戦大会 出場 9月8日、11月17日 平成25年度千葉県大学サッカーリーグ2部リーグ 出場 9月9日、10日 平成25年度秋季関東学生リーグ戦 男子5部優勝 4部昇格 9月15日、21日 平成25年度関東大学バドミントン秋季リーグ戦(男子) 6部D 4位 9月20日、21日 平成25年度関東大学バドミントン秋季リーグ戦(女子) 5部D 2位 12月15日 ちば県民活動フェスティバル2013 出演
女子卓球部	10月17日、20日 平成25年度全日本卓球選手権大会(団体の部) 団体 出場 10月22日、29日 Hyundai Bannelong Cup 団体 2位 松澤美里奈 / 佐藤優衣 11月4日 ITTFワールドツアー ポーランドオープン 女シングルス ベスト64 松澤美里奈 / U-21 3位 松澤美里奈 11月4日、19日 ITTFワールドツアー ドイツオープン 女シングルス 出場 松澤美里奈 / U-21 ベスト8 松澤美里奈 11月13日、16日 全日本大学総合卓球選手権大会 女ダブルス 5位 丹羽美里・佐藤優衣 11月22日、3日 女子シングルス 優勝 丹羽美里 11月22日、3日 平成25年度全日本学生柔道団体優勝大会 団体 ベスト8 11月9日、10日 平成25年度講道館杯全日本柔道団体重別選手権大会 70kg級超 出場 橋本朱未 11月16日、17日 第10回全日本学生柔道団体重別選手権大会 52kg級 優勝 北川真奈 11月16日、17日 第10回全日本学生柔道団体重別選手権大会 57kg級 優勝 岡本悠理 / 70kg級 優勝 向井あすか 9月4日、10月26日 平成25年度東京新大野球連盟2部秋季リーグ戦 2位
女子柔道部	11月16日、17日 第10回全日本学生柔道団体重別選手権大会 52kg級 優勝 北川真奈 11月16日、17日 第10回全日本学生柔道団体重別選手権大会 57kg級 優勝 岡本悠理 / 70kg級 優勝 向井あすか 9月4日、10月26日 平成25年度東京新大野球連盟2部秋季リーグ戦 2位
硬式野球部	9月7日、10月20日 平成25年度千葉県大学野球秋季リーグ戦 2部4位 11月2日 平成25年度千葉県大学野球秋季リーグ戦 出場 11月24日 第60回千葉県秋季学生剣道大会 出場 11月24日 第59回関東学生剣道新人戦大会 出場 11月24日 第14回関東女子学生剣道新人戦大会 出場 9月8日、11月17日 平成25年度千葉県大学サッカーリーグ2部リーグ 出場 9月9日、10日 平成25年度秋季関東学生リーグ戦 男子5部優勝 4部昇格 9月15日、21日 平成25年度関東大学バドミントン秋季リーグ戦(男子) 6部D 4位 9月20日、21日 平成25年度関東大学バドミントン秋季リーグ戦(女子) 5部D 2位 12月15日 ちば県民活動フェスティバル2013 出演
女子卓球部	10月17日、20日 平成25年度全日本卓球選手権大会(団体の部) 団体 出場 10月22日、29日 Hyundai Bannelong Cup 団体 2位 松澤美里奈 / 佐藤優衣 11月4日 ITTFワールドツアー ポーランドオープン 女シングルス ベスト64 松澤美里奈 / U-21 3位 松澤美里奈 11月4日、19日 ITTFワールドツアー ドイツオープン 女シングルス 出場 松澤美里奈 / U-21 ベスト8 松澤美里奈 11月13日、16日 全日本大学総合卓球選手権大会 女ダブルス 5位 丹羽美里・佐藤優衣 11月22日、3日 女子シングルス 優勝 丹羽美里 11月22日、3日 平成25年度全日本学生柔道団体優勝大会 団体 ベスト8 11月9日、10日 平成25年度講道館杯全日本柔道団体重別選手権大会 70kg級超 出場 橋本朱未 11月16日、17日 第10回全日本学生柔道団体重別選手権大会 52kg級 優勝 北川真奈 11月16日、17日 第10回全日本学生柔道団体重別選手権大会 57kg級 優勝 岡本悠理 / 70kg級 優勝 向井あすか 9月4日、10月26日 平成25年度東京新大野球連盟2部秋季リーグ戦 2位
女子柔道部	11月16日、17日 第10回全日本学生柔道団体重別選手権大会 52kg級 優勝 北川真奈 11月16日、17日 第10回全日本学生柔道団体重別選手権大会 57kg級 優勝 岡本悠理 / 70kg級 優勝 向井あすか 9月4日、10月26日 平成25年度東京新大野球連盟2部秋季リーグ戦 2位

199

OB OG Interview

淑徳人

Hasebe Tetsuya

長谷部 徹弥さん

千葉県柏市立柏第二小学校 校長

教育を支えるものは、「愛情」と「情熱」

縁を大切に、そのための努力はもっと大切。

柏第二小学校の校長として活躍する長谷部徹弥さん。校長職となった現在も高学年の授業を受け持ったり、校庭で子ども達とドッジボールをしたり、縄跳びをしたりして、子ども達とふれ合う時間を一番大切に、そして楽しんでいる。これまで人とのつながりの大切さを身を持って感じている。人との縁やその縁をどのように引き寄せたのか聞いてみた。



Hasebe Tetsuya 1955年、新潟県生まれ。1977年、社会福祉学科卒業。松戸養護学校(現松戸特別支援学校)実習助手、その後、特別支援学校の小学部から小学校の体育主任を経て教務主任に。2009年から校長職につき、柏市立柏第二小学校赴任2年目を迎えた。2013年度千葉県体育功労者等顕彰。

100年を超える伝統を持つ柏第二小学校。その43代校長であるのが長谷部徹弥さんである。長谷部さんは父親が社会福祉協議会で仕事をしていて、父親がみんなから頼りにされている姿を見て育った。いつしか、自分もそんな人になりたいと考え、社会福祉の学部がある淑徳大学に入学した。

「学生時代はアルバイトもしまし、ボランティア活動もたくさんしました。でも、大学での勉強を疎かにすることはなかったですね。教員になると考えていたのですが、単位数が多く卒業までの単位数を取得するのは大変でした。2年目に試験を受けて教諭になりました。大学時代に教員免許を取得していたのでよかったです。

「自分がやりたいことをするのなら、最善を尽くすことは当たり前です。そうすることで自ら自然と工夫をします。すると夢や希望が叶います。そして諦めないで続けていくことが同じくらい大切なことです」

「夢にチャレンジ。明るく前を向いて、諦めないことが大切です」

「2年目に試験を受けて教諭になりました。大学時代に教員免許を取得していたのでよかったです。4年生になり、就職先を考えなければならぬ時期になった。福祉に関連する仕事を探し、ケースワーカーの求人情報を調べていた。そんなとき、大学の寮の先輩であり、当時は学生課の三上浩さん(現キャリア支援センター室長)から松戸養護学校(現松戸特別支援学校)を紹介され、面接試験の結果、採用が決定し、淑徳大卒業後は実習助手として、松戸養護学校養護部での仕事が始まりました。



松戸養護学校にて小学部で5年生の担任として子ども達と一緒に勉強をしているところ(一番左が長谷部さん)。



小学校教諭となり、卒業式で教務主任として卒業式の司会を務めているところ。

①「古典の小箱」… 宮川ゼミの学生が主に源氏物語を見て分かり易く、楽しめるようにカラフルな源氏絵の和歌付き模写を7枚作成しました。

②「堀内サトシ絵本展示」… 国際コミュニケーション学部文化コミュニケーション学科3年の堀内さんが、趣味で描いた自作の白黒絵本2冊と原画を拡大したもの14点を展示しています。



川越市と連携しアクティブラーニング展開

経営学部観光経営学科2年生は「埼玉の観光研究」という選択科目の一環として、立教大学、跡見学園女子大学と共に「川越まちなか再生支援事業」のお手伝いをしています。若者に夜のデートで川越に来てもらうための試験事業を12月1日に行いました。淑徳大学は「夜ごはんマップ」の作成を担当し、既存の川越市の観光マップ等を参考に、レストランへの取材も行ってマップの原稿をみんなで考えました。このマップは、今後も川越市内で入手可能です。



ミュージックラボラトリー教室

「指導者用楽器(親機)と学生用楽器(子機)をケーブルで接続し、集団における鍵盤学習を効率的に行う」システムを導入しました。教員と学生一人ひとりが、ヘッドフォンとマイクを通して「マン・ツー・マン」でコミュニケーションもできる上、任意のグループによるアンサンブル演奏など異なった課題で学習もできます。また、ヘッドフォンを使って自分の演奏だけを聴きながら、自分のペースで練習に打ち込めます。



各種コンテストの結果報告



淑徳祭の一環として開催された各種コンテストについての結果は次の通りです。

「スピーチコンテスト」の優秀賞を受賞した野本さんは、発展途上国における女性教育の必要性を訴えました。

DIGITAL CONTENTS AWARD 2013は、「キャンパスライフを発信しよう」をテーマに、大学生活を表現する作品を募集していました。最優秀賞の有賀さんの作品は大学の中に埋もれている「情報」を表現し評価されました。

「学生懸賞論文・エッセイコンテスト」の最優秀賞の涌井さんの作品は、山田詠美『蝶々の纏足』について述べたエッセイです。

一方、「学園祭ゼミ発表会」は、台風26号の影響により、2日目の27日のみの発表となりました。入賞した各ゼミは、それぞれ学生主導のアクティブな発表や説明が行われました。受賞したみなさん、本当におめでとうございます。

陸前高田市 炊き出しボランティア

10月27日～29日に、埼玉キャンパスの藤森ゼミと岩村ゼミの学生7名と教員3名が、陸前高田市の浄土寺にボランティア合宿に行きました。28日に他のボランティア団体と協力して炊き出しを行い、仮設住宅に住んでいる方々をお誘いして、短い時間ではありましたが、楽しい時間を過ごしてもらいました。また、佐賀県の浄土宗寺院を通じて送られてきた1トンのお米を5



キロずつ参加者に配給し、さらに重曹・クエン酸・アロマエッセンスを自ら配合して作る入浴剤作成コーナーを設け、学生が指導しました。

学生の作品を展示

図書館1階の企画展示コーナーにおいて、学生の作品2点を展示しています。



菅田小学校での養護教諭の体験



12月2日～4日、看護学科4年生3名が修学旅行に出かけた養護教諭の代わりに菅田小学校の保健室の留守番をしました。留守番をした学生からは、「保健室には、怪我をしたり具合が悪くなったり、多くの子供たちがやってきました。少し休んだり、怪我の手当てをしたりした後、また元気いっぱい勉強や遊びに戻る子供たちを見て私たちが元気づけられました。3日間でしたがとても貴重な体験ができました。」という感想が寄せられました。

SAITAMA Campus

JATA旅博2013

経営学部の1年生有志12名は、9月に東京ビッグサイトで開催された「JATA旅博2013」で、「ラスベガス観光局」出展ブースにおいて、プロモーションのお手伝いをさせていただきました。カジノやエンターテインメントで有名なアメリカ有数の観光都市ラスベガスについて事前に学び、旅博当日にはラスベガスを紹介するパンフレット配布やプレス対応等を行いました。



第18回 淑徳祭開催



埼玉キャンパスでは、10月26日・27日の両日で学園祭を行なう予定でしたが、台風27号の影響のため残念ながら26日が中止となり、27日のみの開催となりました。「LINK LIKE LINE～淑徳でつながろう～」のコンセプトで、ステージにおいて学生の様々なパフォーマンスのみならず、外部団体の演奏やお笑いライブなどで喝采を浴びていました。今回の淑徳祭を機

に、ご協力や来場された地域の皆様とのつながりを一層深めることができました。

なって、FD研究授業を実施しました。その授業参観の後には第二部としてシンポジウム形式で、榎沢良彦教育福祉学科長による「専門教育の充実について」、土井浩信教授による「授業の運営：双方向授業について」、質疑応答など関連な発言が展開されました。今後一層FDに期待される大変有意義な取り組みとなりました。

BBSが厚生労働大臣表彰

ボランティアサークルBBSは永年にわたり千葉地区のBBS(Big Brothers and Sisters)の活動を行っています。このたび「平成25年度ボランティア功労者に対する厚生労働大臣表彰(グループ団体)」に表彰されました。おめでとうございます。



なお、BBSは2012年12月に千葉県知事より「千葉県社会奉仕賞」、2011年11月は国際ソロプチミスト日本財団の「社会ボランティア賞」を受賞しています。

CHIBA2nd Campus

保護者懇談会が開催

10月26日に保護者懇談会が開催されました。台風の影響で悪天候にも関わらず、65名もの保護者の皆様にご参加いただきました。

懇談会では大学の教育方針や状況、キャリア支援や奨学金等について説明を行い、その後、教育アドバイザーとの個人面談が行われ、



テーブルマナー講座

11月5日、栄養学科1年生のテーブルマナー講座がホテルニューオータニ幕張で行われました。講座では楽しい雰囲気の中でおいしく食事ができるよう、周りの人を不快させないことを基本とした食事のマナーや、また冠婚葬祭のマナー・エチケットについても学びました。始めは緊張していた学生も美味しい食事と講師の方の楽しいお話で楽しく過ごし、食を扱う管理栄養士として、また一つ成長しました。



及び防犯ボランティアサークル淑徳イーグルアイズ(Shukutoku Eagle Eyes:SEE)のメンバーが参加しました。

山本准教授は、県より委託を受けて、地域住民アンケートを実施し、この防犯モデル事業の効果測定結果を、学生とともに授業の一環として活用し、研究に取り組みます。



この様子は読売新聞などに掲載されています。

千葉都市モノレールプロジェクトを実施

千葉キャンパス2学部学生で構成する千葉都市モノレールプロジェクトは、今年25周年を迎えた千葉都市モノレール(株)との記念コラボ事業を11月に実施しました。11月10日からの内閣府「家族の日、家族の週間」に合わせ、家族をテーマにした「家族で過ごす動物公園」「モノレールと家族の写真展」「チャレンジ!子ども駅長体験」「あなたの街のぼっぼさん」の4つの行事で、開始前には千葉市長を表敬し、協力をお願いしました。



心理臨床センター公開講座

11月30日、淑徳大学大学院心理臨床センター主催の公開講座が実施されました。本講座は、心理臨床センターの地域支援の一環として、センターのスタッフである職員と大学院生の運営によって行われています。今回は「DSM5改定によって何がかわるか」というテーマのもと、本学の小川恵教授と黒田美准教授による講演が行われました。当日は援助職として活動されている方を中心にたくさんの方が参加されました。



教育福祉学科FD研究授業

12月19日、千葉キャンパス2号館201教室で、2,3年生を対象にして仲本美央准教授が授業者と

CHIBA Campus

クライミングウォールを設置

千葉第一キャンパス2号館の武道場前にクライミングウォールが設置されました。ロープ等を用いないボルダリング専用のウォールです。使用ルールを守れば、誰でも利用することができます。11月4日の龍澤祭においても一般開放され、多くの子どもたちで賑わいました。

クライミングは今注目を浴びている全身運動であり、達成感を感じ、楽しみながら運動を行うことができます。みなさんも、ぜひ一度体験してみてください。



第47回 龍澤祭開催

11月3～4日、千葉キャンパスにて第47回 龍澤祭が開催されました。「子ども



の笑顔を咲かせよう」をテーマに、中庭ステージでは子ども向け新企画の仮面ライダー鎧武ショーなどに大勢の聴衆が集まり大盛況でした。

3日はホームカミングデーも催され、「これからの福祉事業を考えた起業」と題し、卒業生の福祉経営者によるシンポジウム形式の講演会が行われました。また、淑水記念館3階にて創立

50周年記念企画アーカイブス特別展「大蔵寺と生実郷」も開かれました。(5月30日まで開催)

千葉県コンビニ防犯ボックス開所式

11月6日、ミニストップ千葉星久喜店で千葉県が推進するコンビニエンスストアを第二の交番とする「コンビニ防犯ボックス」開所式に、山本功准教授(専門:犯罪社会学)とゼミ生、



The 50th Anniversary

50周年 記念ロゴ&キャッチコピーが決定!!



創立 50 周年を迎えるにあたり、本学はそこをゴールと見据えるのではなく、次の 100 年への大切な通過点と考えます。

学祖長谷川良信の理念を引き継ぎ、磨き続けてきた建学の精神。それは時を経て「変わらないもの」。不変の想いを持ち続けながらも、その時代時代ごとに、「変えてゆくこと」。変化を恐れず、邁進してゆく淑徳大学。その先に見えるのは、学生たちの心底からの笑顔と自信、そして地域の人たちとの温もりのある絆。それらの想いを、相反する言葉で印象的に表現しました。

栄養学科の

知識モリモリ × 栄養モリモリ

今回は細山田 洋子先生に伺いました。

vol.4



じょうずに食べて元気にはつらつと!

長寿の時代です。だれしもの共通の願いは「元気にはつらつと長生きする」ことではないでしょうか。さて、元気を保つ源のひとつに「食べること」があります。食事は人間の生命と活動を支える源です。身体を動かす活動源となるエネルギーは、タンパク質や脂質、糖質の 3 大栄養素から供給されていて、タンパク質は、筋肉や臓器、血液など体の主要な構成成分であるとともに生命の維持に欠かせない酵素やホルモンをつくる大切な栄養素です。このタンパク質とエネルギーのどちらかが不足しているか、両方が不足し、健康な身体の維持や活動するのに必要な栄養素が足りない状態を低栄養と言います。

今どき低栄養なんて…と思われがちですが、最近もテレビ等で『新型栄養失調』、『低栄養』の話題が取上げられています。高齢者ややせ志向の強い若年者にみられ、高齢者の場合は、日常生活活動の低下、感染症の誘発、在院日数の延長等が引き起こされ、要介護状態のリスクが高まります。若年女性の場合は、骨粗しょう症の発症リスクが高まるなど、健康状態に影響がでることもあります。「食事バランスガイド」(厚生労働省、農林水産省)などを参考に日々の食生活を見直してみましょう。

第 3 回 長谷川良信記念・千葉市長杯争奪

車椅子バスケットボール 全国選抜大会

3/1・2日

- 千葉キャンパス
2号館 (アリーナ)
- 正午より

参加予定チーム

- 宮城MAX
- No Excuse
- ワールド BBC
- 千葉ホークス

編集後記

今号の特集で 100 号以降の大学広報誌面を通して、本学の 20 年を辿ってみた。通覧することで新たに蘇る事柄もあり、故(ふるき)を温(たず)ねるのも、また楽しからずや。

自分の仕事を振り返れば、短大からの改組転換による大学図書館の建設、そして今年度のラーニング・commons 対応への大改修と、多くの関係者と協働して担った。このような大事業に関ることができ、仕事人としては幸運であった。

更に、「図書館は成長する有機体である」(ランガナタン、『図書館学の五法則』、1932) ために、当館はたゆまぬ新しいサービスと利便性の向上を目指す。今日もまた、1階の企画・展示コーナーで控えめに流れるピアノ/ジャズを聴きながら、利用者を気持ちよく迎えるための開館準備にスタッフ一同余念がない。(相澤)

“Books are for use” (五法則の一つ)

「淑徳大学広報」に関するご意見、ご感想などのメールをお待ちしております!

reply@soc.shukutoku.ac.jp

■ 千葉キャンパス

総合福祉学部 / コミュニティ政策学部
大学院総合福祉研究科

千葉市中央区大蔵寺町 200 TEL.043-265-7331

■ 千葉第2キャンパス

看護栄養学部

千葉市中央区仁戸名町 673 TEL.043-305-1881

■ 池袋サテライト・キャンパス

東京都豊島区南池袋 1-26-9 MYT 第2ビル 7F TEL.03-5979-7061

■ 埼玉キャンパス

国際コミュニケーション学部 / 経営学部 / 教育学部
大学院国際経営・文化研究科

埼玉県入間郡三芳町藤久保 1150-1 TEL.049-274-1511

■ 東京キャンパス New!!

人文学部 (2014 年 4 月設置)
淑徳短期大学 (2014 年 4 月淑徳大学短期大学部に名称変更予定)
通信教育部

東京都板橋区前野町 2-29-3 TEL.03-3966-7631